

久留米スポーツセンター 体育館 (メインアリーナ棟/サブアリーナ棟/武道場棟)

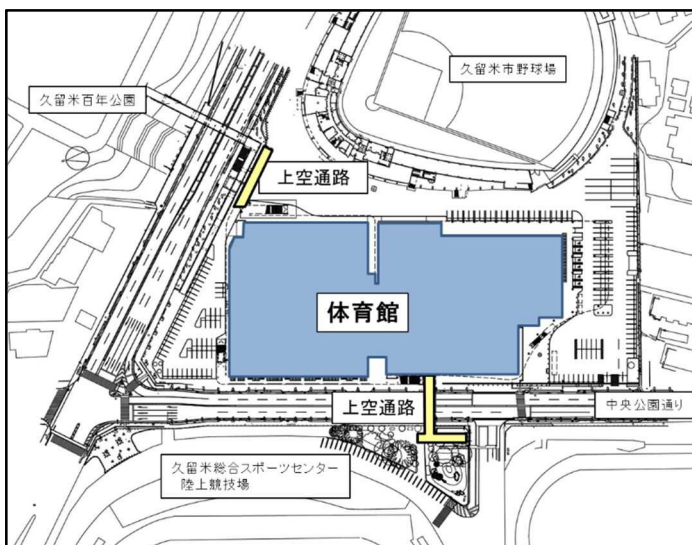


(南西側鳥瞰)

■事業概要

本施設は、久留米総合スポーツセンター内に位置する総合体育館であり、九州最大級の屋内スポーツ施設です。

福岡県立体育館・久留米市武道館・久留米市弓道場の老朽化に伴い、一体化させた県南地域の核となる総合スポーツ施設として、県と久留米市が建設しました。



■工事概要

所在地：久留米市東櫛原町

構造階数：鉄筋コンクリート造
地上2階建て

延床面積：

メインアリーナ棟 8,502.55 m²

サブアリーナ棟 993.75 m²

武道場棟 9,319.43 m²

竣工年月：平成30年2月

工事原課：教育庁教育振興部

体育スポーツ健康課



(上：北西側外観 下：南西側外観)

外観・内観の壁のパターンは、久留米の伝統産業である久留米絣の文様および織目・編目の表情をスパンドレルパネル（リブ状金属パネル）や県産材を用いた木質化パネルなどで表現しました。

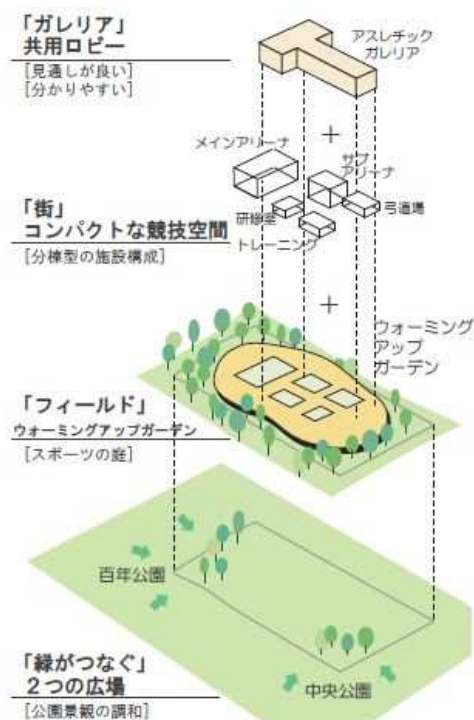
外観は経年の汚れや劣化に強く、中央公園、百年公園の風景と調和するようにシンプルな艶消しのスパンドレルパネルを採用しました。



(エントランスアプローチ)



(ウォーミングアップガーデン)



(施設構成のイメージ図)

誰もがスポーツを楽しみ、親しみ、育んでいくためのスポーツ施設を実現するため、「するスポーツ」・「観るスポーツ」・「支えるスポーツ」の3つの視点を施設整備の基本コンセプトとしました。

久留米スポーツセンター体育館は、緑豊かな中央公園内にあることを活かし、公園の緑と共に試合の高揚感を高めたり、リフレッシュが出来る「フィールド」として、屋上にウォーミングアップガーデンを計画しました。また、中央公園、百年公園と上空通路で繋ぐことにより公園全体を一体的に利用がすることができます。

施設の中心で、全体の機能が見渡せる2層吹抜けの「アスレチックギャラリー」は、外部のような開放的な空間で上下階をつなぎ、全ての競技空間へアクセスできる「街」のメインストリートイメージしています。ここには、休憩スペースや情報コーナーなども配置し、訪れた市民が自然やスポーツと触れ合うきっかけが創出される空間を目指しました。

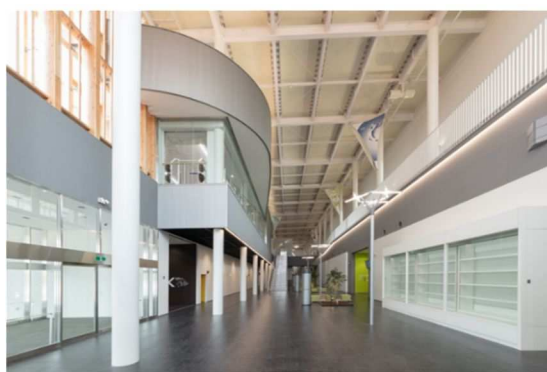
コンセプトである「する」・「観る」・「支える」の動線分離を図りつつ、施設全体を回遊できることで、スポーツ活動を喚起し、出会いを生む場としています。



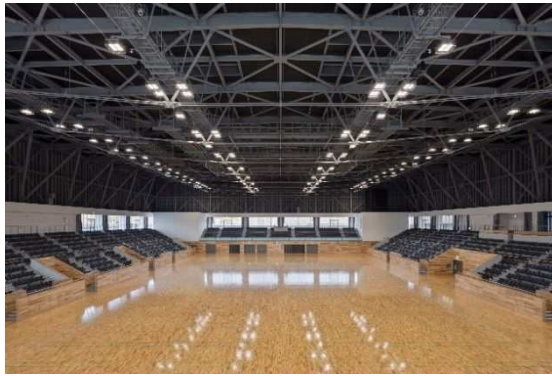
(上空通路)



(ウォーミングアップガーデン)



(アスレチックギャラリー)



(メインアリーナ内観)

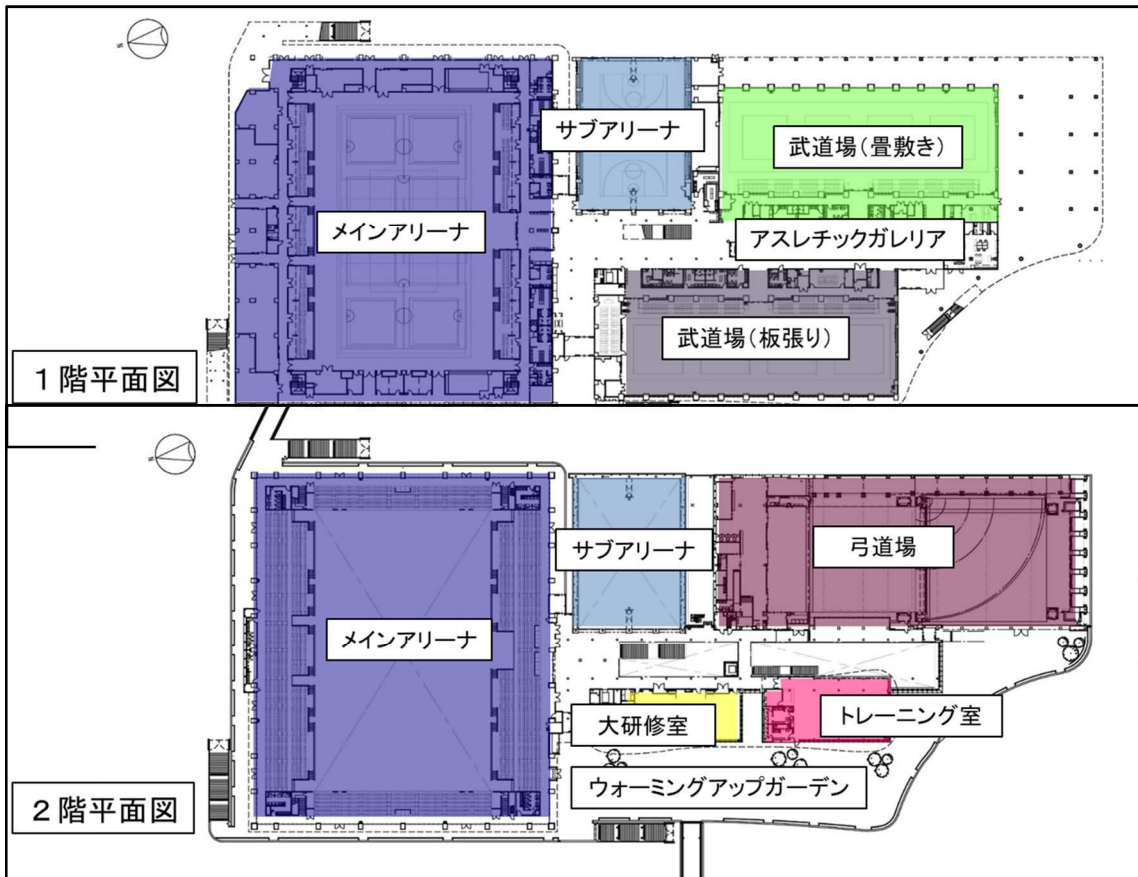


(武道場(畳敷き)内観)



(サブアリーナ内観)

機能性を重視したゾーニングにより各競技場が独立しているため、大会の同時開催も可能です。メインアリーナおよび道場の観客席は、競技空間と同レベルに配置し、競技者と観戦者が一体となる臨場感ある空間となっています。建物中央に配置されたサブアリーナは各競技スペースの補助空間としても利用可能です。



筑後広域公園 プール



(南東側鳥瞰)

■事業概要

本施設は、筑後広域公園の屋内スポーツエリア内に位置しており、日常的な「健康づくりの拠点」となる施設を目指して建設しました。

矢部川が近いため、敷地周囲より2～2.5m程度、敷地全体を盛土し、浸水対策を行っています。高低差がある法面を緑で覆うことにより、周囲の田畑とも緑で繋がる計画としました。



(屋内温水プール室)

■工事概要

所在地：みやま市瀬高町本郷

構造階数：鉄筋コンクリート造

地上2階、地下1階建て

延床面積：4,934.38㎡

竣工年月：平成28年6月

工事原課：建築都市部 公園街路課



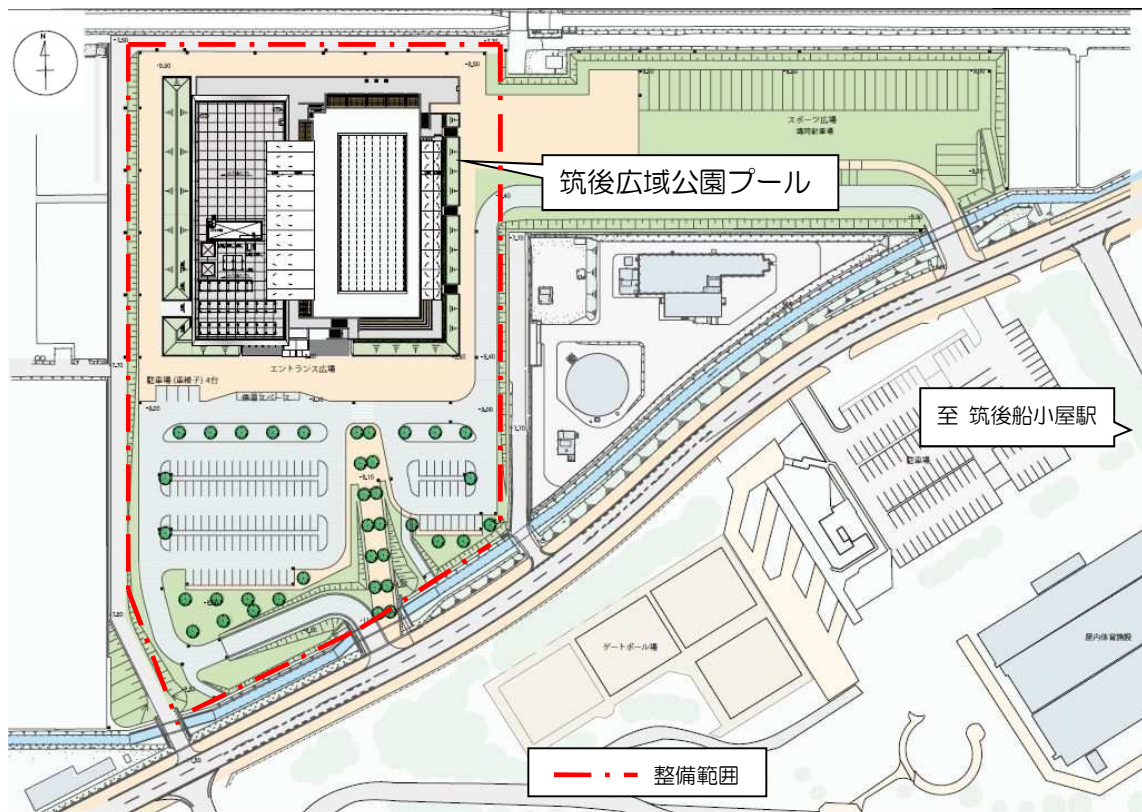
(屋外50mプール)



(フィットネスルーム)

競技用公認屋外50mプールは、四周を観客席で囲うことで、大会ならではの躍動感により、選手のモチベーションを高めることができる空間としています。また、平時でも一般の方々が利用しやすいように、水位を変えられる2段オーバーフロー方式を採用しています。この他に、併設して屋内温水プール室、トレーニングルーム、フィットネスルームや会議室などを備えています。

環境への配慮のとして、庇やルーバー等による日射低減をはじめ、太陽光発電や自然換気などの自然エネルギーの活用や、周辺緑化による外気の冷却効果、プール水の再利用などを行っています。ろ過装置は、その設備の機能を維持するために1日数回水を逆流させてろ材を清掃するとともに、その逆流水をろ過し、トイレの洗浄水に使用することで節水を図っています。



(配置図)

福岡自治研修センター



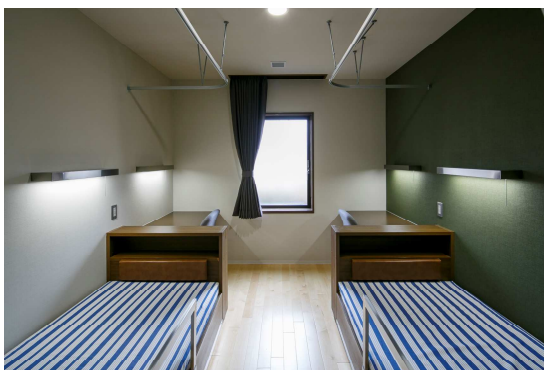
(レストラン)

■事業概要

福岡自治研修センターは、昭和 63 年に竣工し、大野城総合公園（まどかパーク）の南側に立地しています。

本施設は、福岡県及び県内市町村の職員の研修所として利用されていましたが、

「県民の学びの場」としてスポーツ合宿や企業の研修等、一般利用も可能な施設となるよう、老朽箇所の改修や研修・宿泊環境の改善を図るため、改修工事を実施しました。



(宿泊室)

■工事概要

工事内容：内部改造・外壁改修工事

所在地：大野城市大字乙金

構造階数：鉄筋コンクリート造

地上4階建て

延床面積：13,624.7㎡

竣工年月：令和5年2月

工事原課：総務部人事課



(レストランテラス)

■レストラン

周辺の緑豊かな外部空間と内部空間をつなぐ屋外デッキを設けることで、開放的な空間となっています。

また、開口部が大きく設計されているため、屋内にいても開放感を感じることができます。



(ロビー)

■ロビー

ロビーは、内装改修と喫茶室の一部建具の撤去を行いました。これにより、研修等で訪れた方々の交流を促進させる役割を持つ開けた空間になっています。また、駐車場側に出入口を設けることで、車で来た方々がよりアクセスしやすくなりました。



(洋室ツイン)

■宿泊室

和室を車いすのまま利用できる宿泊室へ改修しました。また、トイレ・シャワールームを備えた宿泊室も設けることで、幅広い利用者のニーズに対応できるように整備しました。



(女子トイレ)

■その他

女子トイレブースの増設、トイレの乾式化、和室からシャワールームへの改修、Wi-Fi環境の整備など、利用者が使いやすいように設備の更新を行いました。